

## 4 ケーススタディ

### 4.1 ケーススタディの枠組み

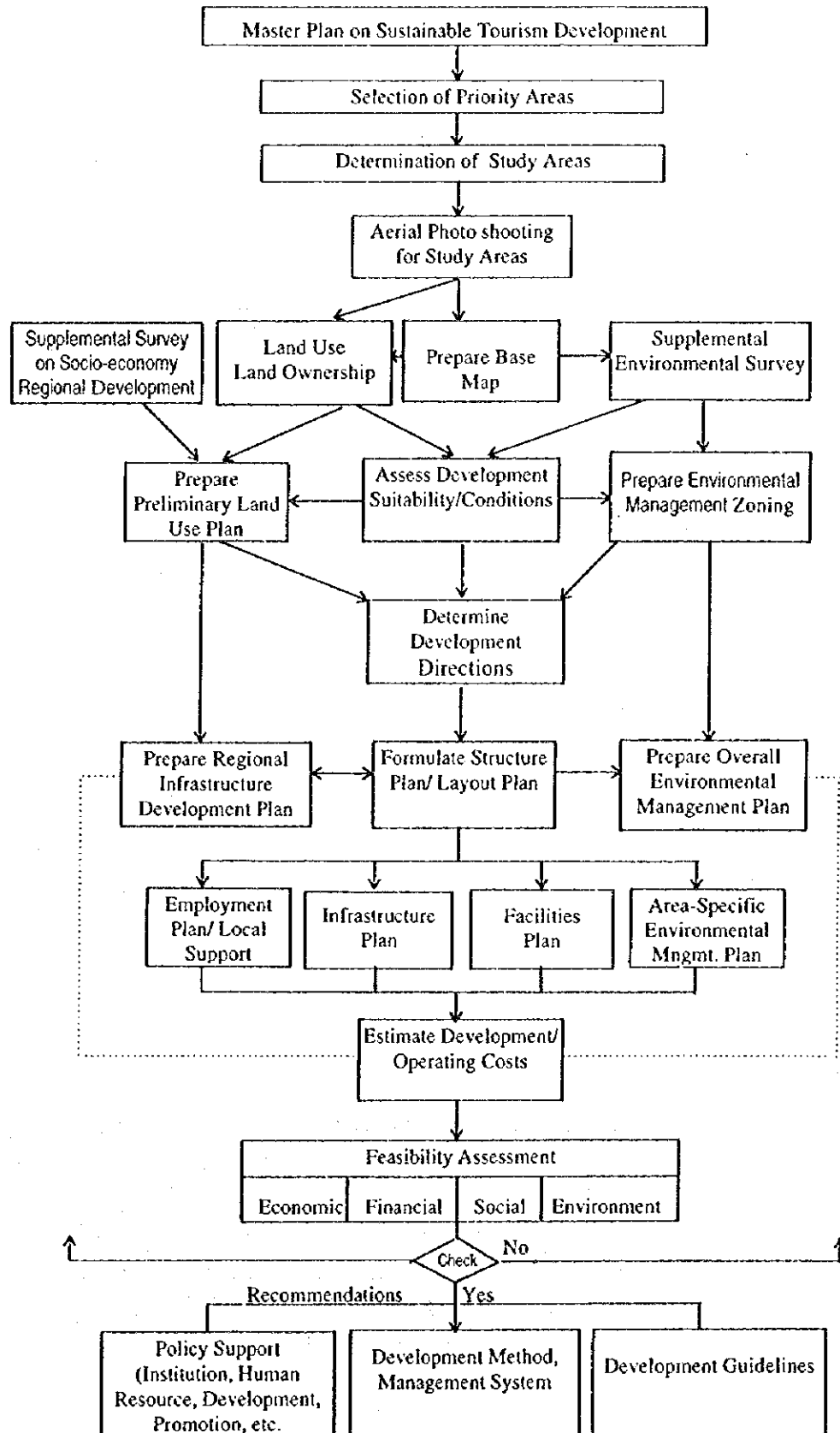
#### 4.1.1 ケーススタディエリアの選定

- ケーススタディエリアは以下の要件を考慮して選定された。
  - (1) ケーススタディエリアは国際観光市場の中で北部パラワンの観光の競争力のあるイメージを代表する地域であること。
  - (2) ケーススタディエリアは地域経済に十分なインパクトを与えること。所得格差を是正するためには、ある程度の開発規模と仕組みが必要である。
  - (3) ケーススタディエリアの開発はインフラ開発、環境保全、地域社会経済等のさまざまな要因を調整するため、また民間投資を効果的に誘導するため、公共セクターが主導するべきである。
  - (4) ケーススタディエリアは土地所有、土地収用、先住民の居住と生活環境、水資源、マラリア、貴重種、絶滅危惧種、開発許容量などについて顕著な制約条件を持たないこと。
- 上記の諸点と北部パラワンの基本開発目標を考慮し、優先開発地域選定のための基準を設定した。結果的に北部パラワンで、中ないしは大規模開発が可能な海浜地区を以下の理由により選定した。
  - (i) 北部パラワンの国際的なイメージは豊富で質の良い海洋環境であり、中でも海浜地域は観光活動の拠点となる宿泊施設開発に最適である。内陸は地形的にも生態的にも開発が環境に及ぼす危険が海浜地域より大きい。
  - (ii) 海浜地域は海洋と陸域両方の活動拠点となり得る。
  - (iii) 海浜地域は他の地形条件よりも開発コストが低い。
- 以上の結果、5つの優先開発エリアを選定した。それらは、(1)カラミアン観光クラスター内のブスアンガ西部岸、(2)エルニド・タイタイ観光クラスター内のエルニド北部、(3)ロハス・サンヴィセンテ観光クラスター内のロハスとサンヴィセンテ海岸、(4)プエルトプリンセサ観光クラスター内のホンダ湾。以上の5つ優先観光開発地域の内ステアリング・コミッティで討議した結果、(1),(2)が選ばれた。

#### 4.1.2 ケーススタディ地区の作業フロー

- ケーススタディの作業フローは下図4.1.1に示す通りである。

図 4.1.1 ケーススタディ地区の調査作業フロー



## 4.2 ブスアンガ西部ケーススタディエリア

### 4.2.1 地区概要

#### 位置と地理的特色

- ブスアンガ西部地区はブスアンガ島西部に位置し南北14km、東西16kmにわたり、地区総面積は約120km<sup>2</sup>である。(図4.2.1参照)この地区は1次林に覆われていたが、ブスアンガ島で不法伐採や焼き畑などによりほとんど姿を消し、わずかながら点々と1次林が存在している状況である。海岸線沿い景観は、数々の小島群や入り江で構成され多様である。北部パラワンの他の地域と比べて珊瑚や他の海洋資源は保全されている。
- ケーススタディエリアは、サルバシオン(中心地)、サンラファエル、ニューブスアンガ、オールドブスアンガ、ブルアンの5つのバランガイから成る。

#### 社会経済状況

- 1995年のエリアの人口は約4,700人であった。年間人口増加率は6.6%と高い。(表4.2.1参照)人口のほとんどは、農業や漁業で自足自給の生活をしている。役所に勤める人々は市町村庁所在地のサルバシオンに集中している。農漁業が主な産業であるが、地区内で営む真珠の養殖業が唯一雇用を生み自治体の財源となっている。
- 調査団が行った社会経済家庭訪問調査によると、地域住民が訴える上位5つの地域の問題は、雇用、道路交通、医療、電気、上水供給であった。

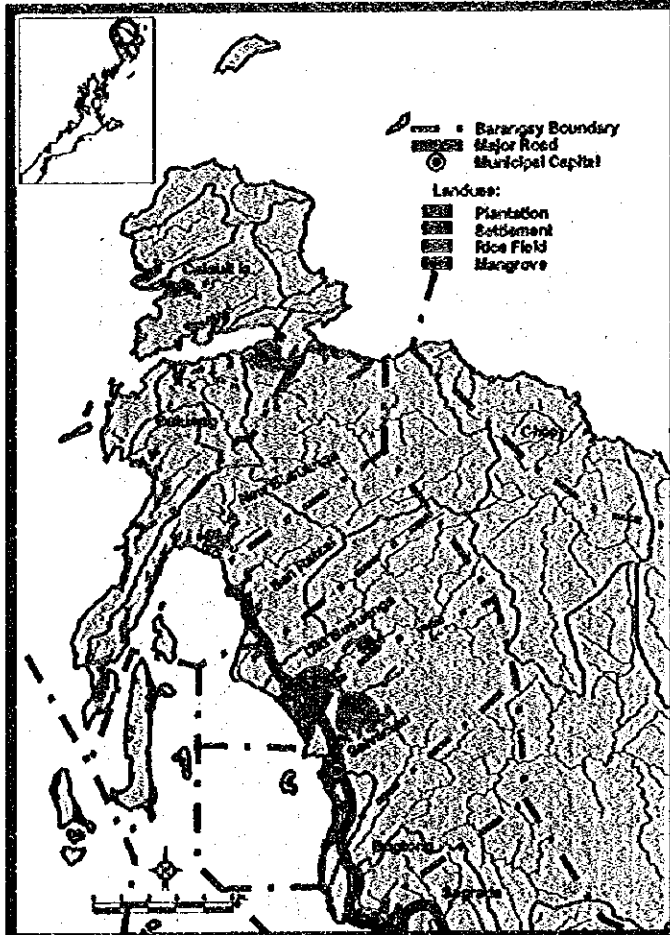
#### 交通とインフラ

- 道路や道路交通は貧弱である。ニューブスアンガから西に延びる延長4kmのニューブスアンガ-チーイ道路は州のプロジェクトで全長の約60%完成している。真珠養殖業者のスマピ(SUMAPI)は空港(滑走路800mx30m)を所有しているが、十分な排水施設はなく、整備も不十分である。自治体所有の公共の港はプト岬にあり、その他民間の木製の棧橋も数箇所ある。
- 国家発電会社(National Power Corporation)とブスアンガ電力供給組合(Busuanga Island Electric Cooperative)がサルバシオン、オールドブスアンガ、ニューブスアンガ、ブルアンに24時間電力を供給している。しかし供給されている世帯数は254世帯と少ない。ブスアンガには優良な水資源があるにも関わらず、水資源施設開発は後れている。レベルIII供給はサルバシオンの中心市街地のみである。通信施設はサルバシオンの役場に1ヶ所ラジオ通信施設があるだけである。

## 土地利用と土地所有

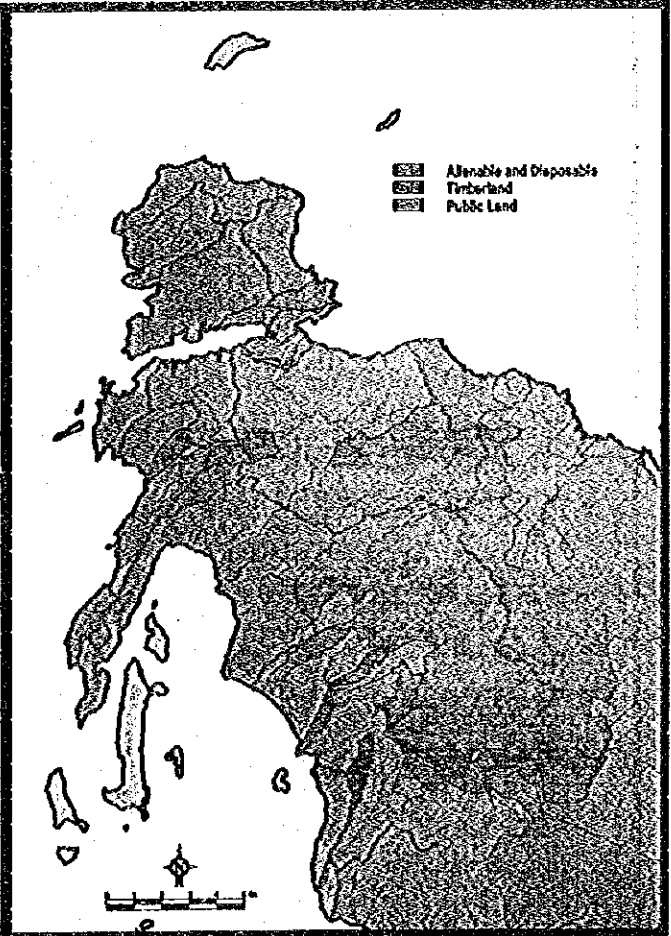
- 土地は森林(Timberland)と所有可能地(Alienable & Disposable)に大まかに区分されている。個人の土地所有は所有可能地のみで許されている。(図4.2.2参照)ブスアングの約55%は個人で所有され、内陸の公有地はほとんど国が所有している。一般的に満ち潮時の海岸線から40m内陸の海岸は国が所有し、また川の両岸から20mも壁面後退が義務付けられている。

図4.2.1 ブスアング西部立地と地理特色



出典：調査団

図4.2.2 ブスアング西部の土地分類図



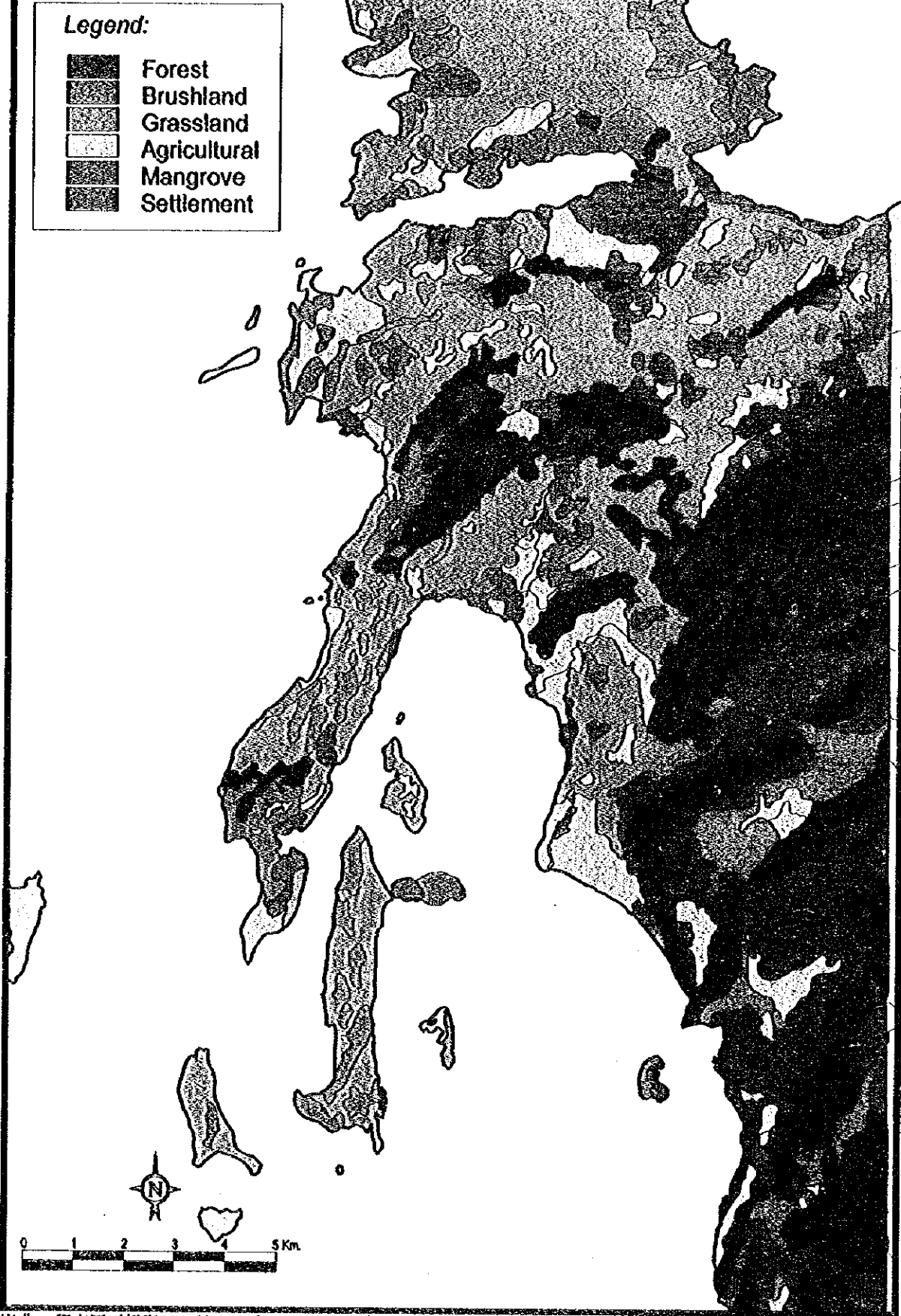
出典：Department of Agriculture

表4.2.1 ブスアング西部の人口増加

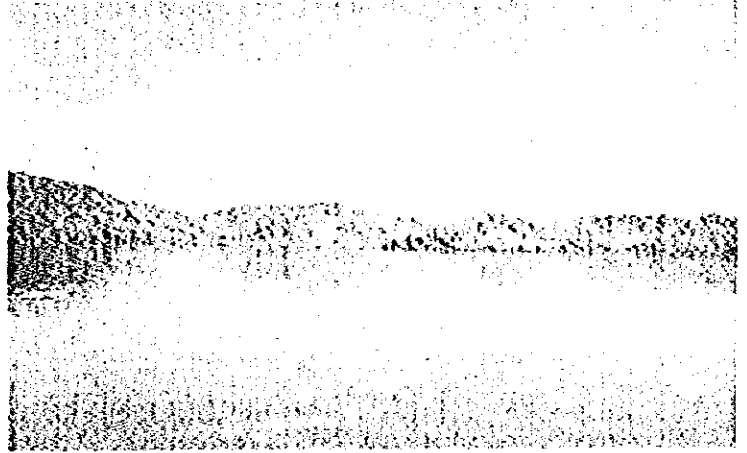
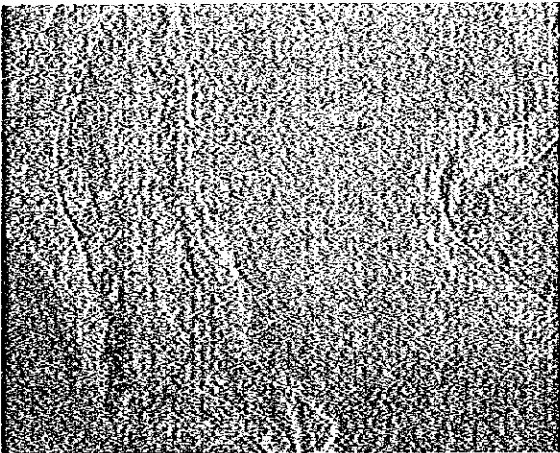
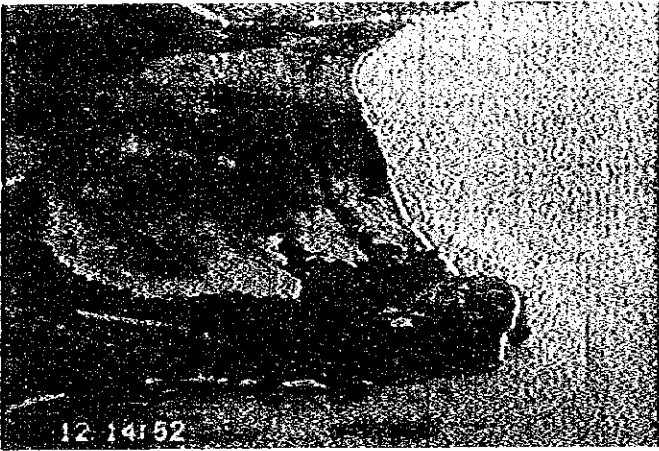
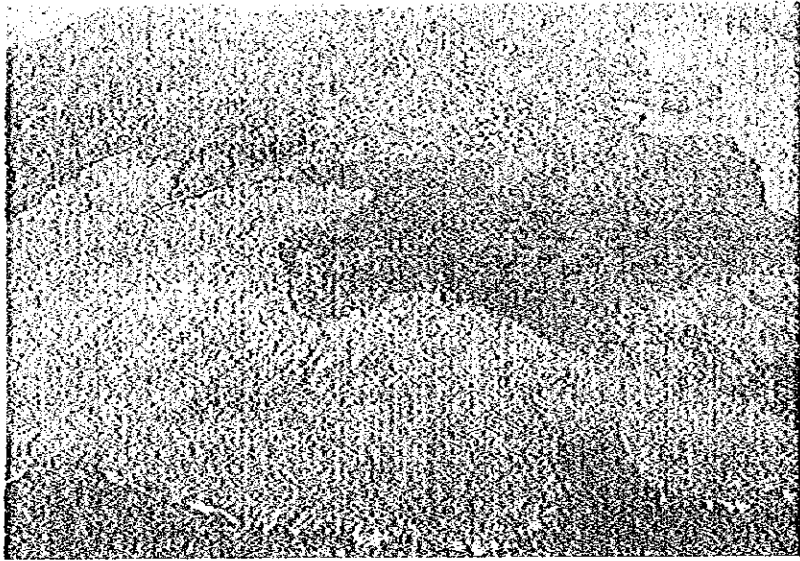
バラングイ	1990	1995	1990-1995年間 増加率: %/yr.
サルバシオン	1,163	2,376	15.4
オールドブスアング	607	648	1.3
ニューブスアング	825	696	-3.3
ブルアング	511	514	0.1
サンラファエル	315	470	8.3
合計	3,421	4,704	6.6

出典： NSO

図4.2.3  
ブスアンガ西部  
土地利用図  
(1996年航空写真による)



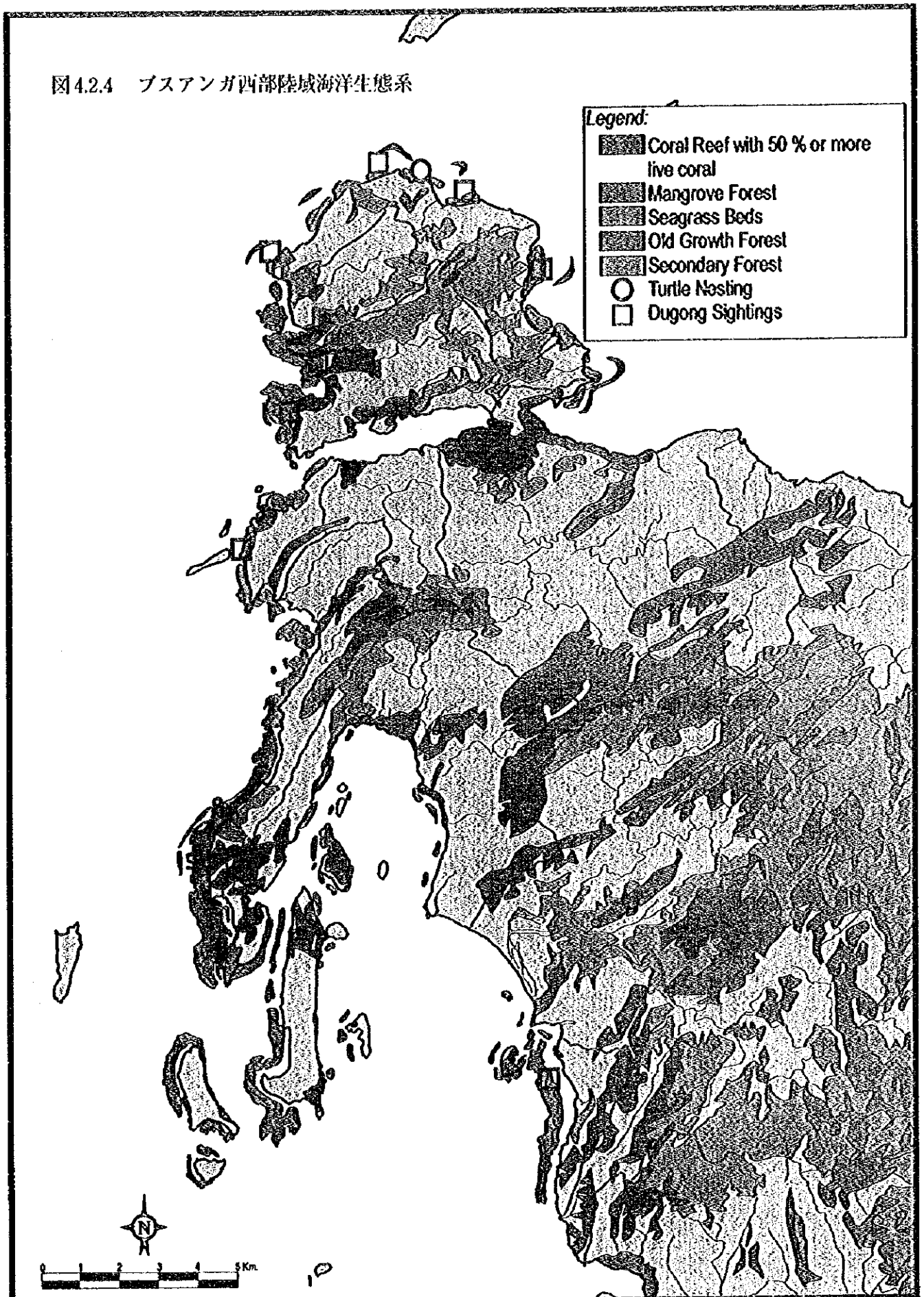
出典：調査団が撮影した航空写真をもとに作成



## 環境

- 森林被覆率は減少傾向にある。調査団が1992年の日本林業技術協会（JAFTA）の援助で作成された土地利用図と1996年の航空写真を比べたところ、1次林は約14%減少、2次林も41%減少していた。カラウイト島では保全されるべき植生がカラミアンディアの増殖によつて食い荒らされていた。原生林の広葉樹やモラブ、そしてカラミアンディアの生息域となっている比較的大規模に残っている2次林は注目されるべきである。
- ブスアンガの動物生態系はパラワン本島と異なる。最も人間の影響を受けているのがパラワンインコとカラミアンディアである。パラワンインコは原生林にだけのみ存在し、カラミアンディアの生息域は広い。しかし、その広い生息域も人間の活動から影響を受け狭まってきている。
- ブスアンガ半島西側沖合いには、生存率75%以上の「ランクB」の珊瑚が存在する。その他の地域の珊瑚の質は貧弱である。カラウイト島の沿岸部では、海草床が発達している。この地域はジュゴンの生息がしばしば確認されている。カラウイト島の南端のマングローブ林の保全は最高とされている。その他のマングローブ林は破壊されたり、破壊された形跡がある。この地域は、海亀の生息地としても知られている。(図4.2.4参照)
- ブスアンガ市町村の15のバランガイの内10には先住民が住んでいる。彼らはタグバヌア・カラミアン若しくは「海のタグバヌア」と呼ばれ、殆どが島嶼部で生活している。漁業を中心として、燕の巣の狩猟をし、生計をたてている。年間平均収入は約21,000ペソ(約9万5千円)であるが、収入があるのは気候の影響で年間およそ5ヶ月である。現在、エリア内には、先住民居住圏(Ancstral Domain)として申請されているところはないが、市町村レベルでマラホン島、コロコトック島、エレット島、カランピサオ、エリの島々では、食用の燕の巣の保護地区として、先住民の収入源を保護している。(Resolution, No. 39, 1996)
- 以下のような対策をとらないと、スタディエリアの環境はさらに悪化することが懸念される。
  - (イ) 森林伐採と焼き畑、違法な漁業を継続して規制し、効果的な対策をとる。
  - (ロ) カラミアンディアに対して実際的な対策が早急に必要である。これは増加した個体数を間引きすることと、またカラミアンディアがブスアンガ島の森林へ渡るためのコリドーを形成する。
  - (ハ) 珊瑚礁へ悪影響を及ぼす土砂流出を止める。

図4.2.4 ブスアンガ西部陸域海洋生態系



出典：調査団



## 4.2.2 環境管理

### 環境管理エリア分類

- 環境管理計画の基礎を策定するために、調査対象地域を対策レベルの必要性和現況の環境評価によって分類した。評価基準はターゲットとする環境によって設定された。ECANゾーニング上では、保存地域はコアゾーンに対応し、保全地域はの緩衝ゾーンでの利用制限地域に対応している。

表 4.2.2 環境管理計画エリア分類の評価基準

	基準	
	保存地域	保全地域
森林	健全、貴重、生物学的に重要な生態系原生林	大規模な2次林、残存林
傾斜地	傾斜度50%以上の地域 傾斜地保全地域	傾斜度18-50%
陸域動物		絶滅危惧種と土地特有の動物
珊瑚礁	生息率が非常に高く多様多種大規模75%の生息率で比較的健全	
海草		50%以上のmacrophytesが覆っている海草床
マングローブ林	500ha以上でほとんど自然のままの状態。 1000ha以上で多少伐採の形跡がある。	500ha以下でほとんど自然のままの状態。 500-1,000haで多少伐採の形跡がある。 かなりの伐採の形跡はあるが1000ha以上。
ジュゴン		ジュゴンがしばしば見られる地域
海亀		海亀の産卵地

出典： 調査団

### 環境管理計画

- 調査地域では環境を健全に保つためには、保全と補修の両方が必要である。補修作業は植林、侵食面の回復、分断されているカラミアンディアの通路確保と、土砂流出の回避等を含む。保全作業はゾーニングを基にした、監視と環境に影響がある行為の取締りを含む。

表 4.2.3 環境保全修復に必要とされる事業とプログラム

項目	初期コスト (1,000ペソ)	運営コスト (1,000ペソ/年)	合計 (1997~2010 : 100万ペソ)
1. 修復			
1) 植林 <sup>1/</sup>	7,090	-	7.1
2) 侵食面回復 <sup>1/</sup>	4,930	-	4.9
2. 環境の監視 <sup>1/</sup>	-	1,100	15.4
3. プスアンガ半島保全地域の設置 <sup>1/</sup>	3,280	990	17.1
4. 環境地域全体の管理と運営 <sup>1/</sup>	1,000	500	8.0
合計	16,300	2,590	52.6

出典： 調査団

1/ 保育園運営、プランテーション設立、メンテナンス、運営等を含む。単位コストは19,700ペソ/hである。

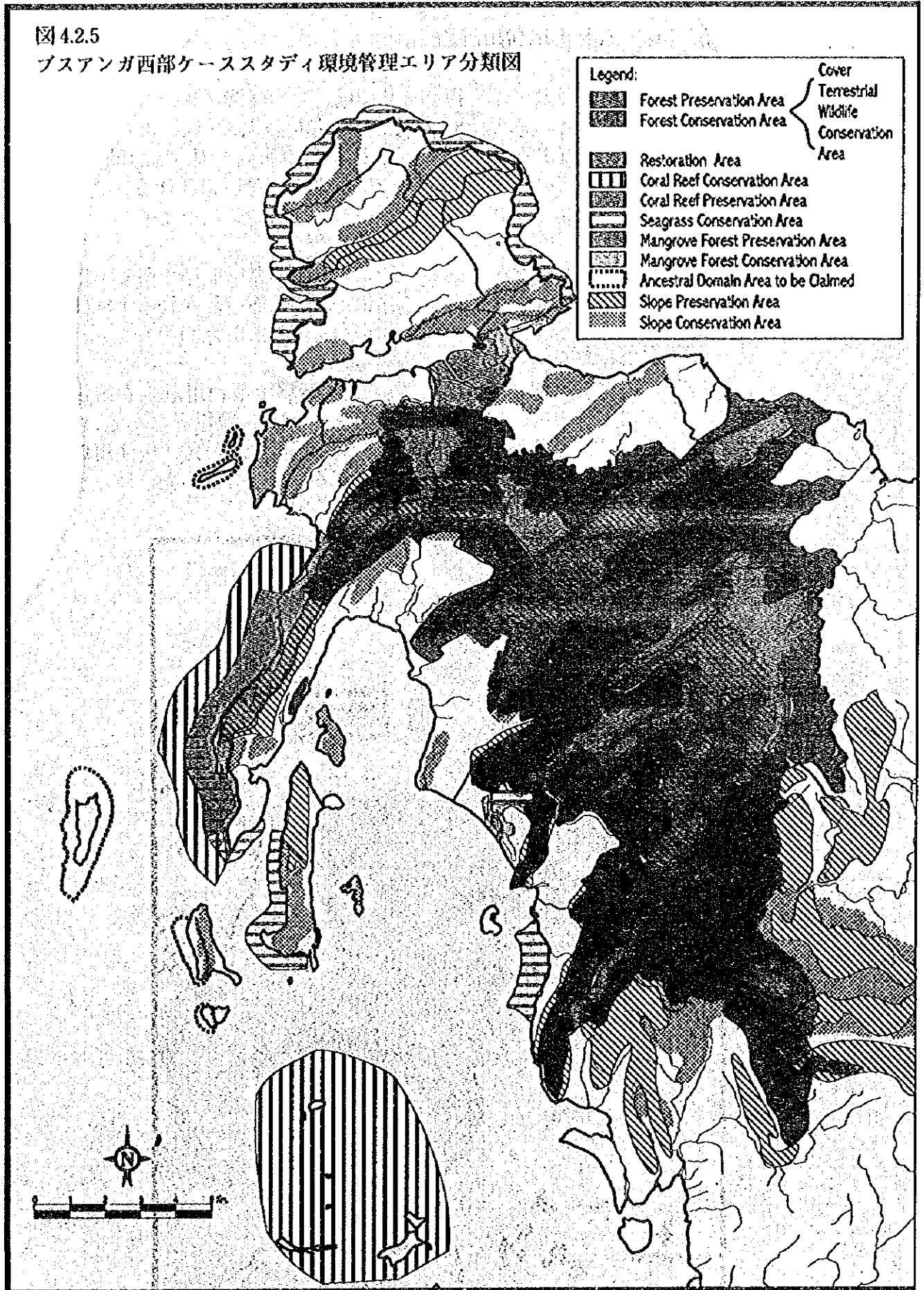
2/ 人権費、機材費、衛星データ分析含む。

3/ 車両費、ボート費、通信費、コンピューター費、ダイビング機材費を含む。

4/ メイン事務所の設立、2つの内陸・海洋事業所の運営と管理費を含む。

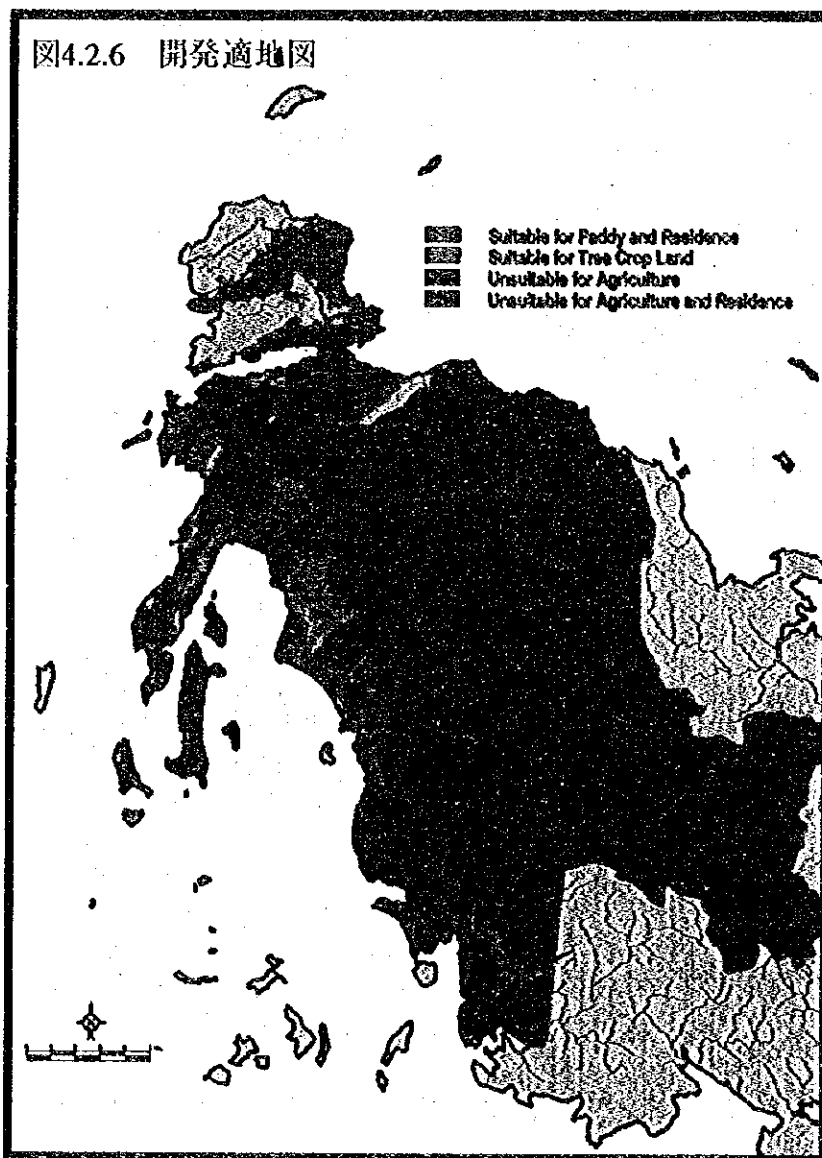
図4.2.5

ブスアンガ西部ケーススタディ環境管理エリア分類図



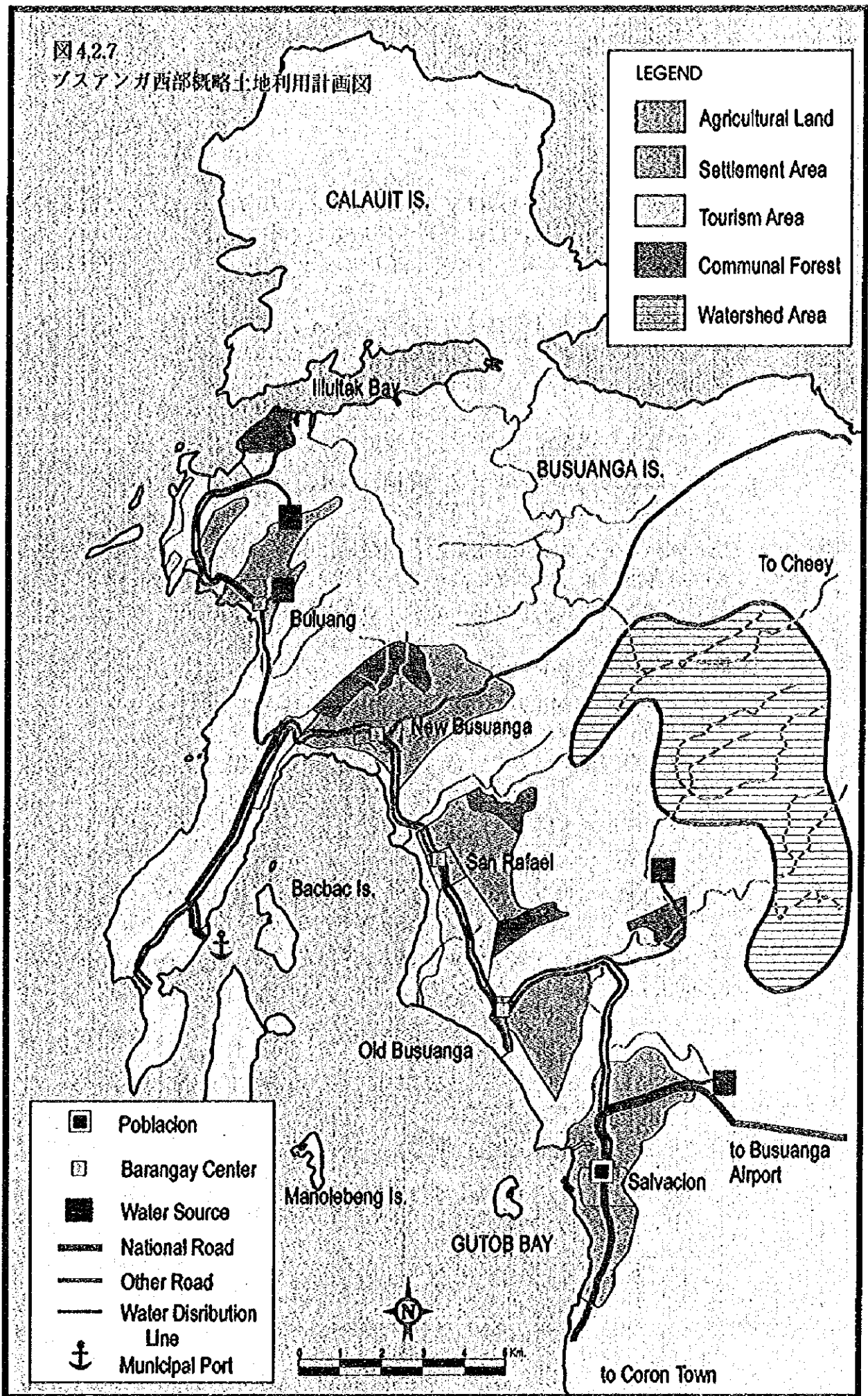
#### 4.2.3 社会経済フレームと土地利用計画

- 観光開発が地域開発の一端を担うためには、社会経済フレームと土地利用計画が必要である。エリアの人口は1995年には2,328人にまた2010年には4,800人に増加することが予想される。市町村全体では1995年に15,800人また2010年には27,300人に増加することが予想される。このため雇用の促進、インフラ開発、公共サービスが必要となってくる。
- 開発適地は傾斜度と土壌を考慮して選定した。開発に最適である土地は傾斜度8%未満で火山灰性の土壌であること、開発適地とされる土地は傾斜度8-18%で砂または火山灰の土壌である。(図4.2.6参照)
- 開発適地と環境管理エリア分類を基にして概略土地利用計画を策定した。この概略土地利用計画は観光開発ポテンシャル地域を含んでいる。(図4.2.7参照)この土地利用計画作業によって産業、観光、居住用地は環境に悪影響を及ぼすことなく、配置できることが分かった。



出典：調査団

図 4.2.7  
 ブスアンガ西部概略土地利用計画図



出典：調査団

#### 4.2.4 観光開発ストラクチャープラン

##### 観光開発ポテンシャル

- 多様で質の高い観光資源はケーススタディエリア内及び周辺に広く分布している。この地区には全調査地域で最も質の高い珊瑚礁、白い砂浜、美しい島々が存在している。イルルタック湾のマングローブ林は北部パラワンで最も保全されている。自然の島々も良い観光資源である。原生林や大規模な2次林はカラミアンディアとフィリピンインコの生息域となっている。グトブ湾からのブスアンガ本島へのパノラマ景観も観光資源の一つである。先住民のニド収集や工芸品も観光アトラクションと成り得るものである。またカラウイトのアフリカからの哺乳類と内陸の牧場も観光資源ポテンシャルである。
- これらの観光資源はスポーツ・探検、観光、教育など多様なアクティビティを外海、湾、海岸、内陸などの様々な場所で行える機会を与える。
- 観光開発ポテンシャルは水供給、開発地、環境への影響などの開発抑制要因を考慮しエリアごとに評価した。開発エリアの開発許容量も観光開発ポテンシャルをより詳細に評価するために設定した。

##### 開発コンセプトとフレームワーク

- ブスアンガ西部部エリアでの観光開発は持続可能型開発をコミュニティ、地域、国レベルで同時に達成することを目的としている。観光サービスは社会経済と環境の両面を統合するための触媒として機能し、地元の経済を発展させ環境管理のための資金を捻出する。この地区での観光開発は国際市場で競争力を持つものであり、フィリピンの新しい観光のイメージを創出する。
- 質の高い環境を持った海洋リゾートを、自治体と住民を含んだ官民からなる共同体で開発し管理することが基本的な開発コンセプトである。
- 2010年の入込み観光客数は年間14万1,500人(海外9万5,000人、国内4万6,500人)でさまざまなクラスの1,200室の宿泊施設を建設する。

#### 観光開発フレームワーク、2010年

観光客数と観光客宿泊数

		海外	国内	合計
観光客数 (000)	6泊	30	0	30
	5泊	42	0	42
	4泊	4	16	20
	3泊	0	30.5	30.5
	1泊	19	0	19
合計		95	46.5	141.5
観光客宿泊数 (000)		425	155.5	580.5

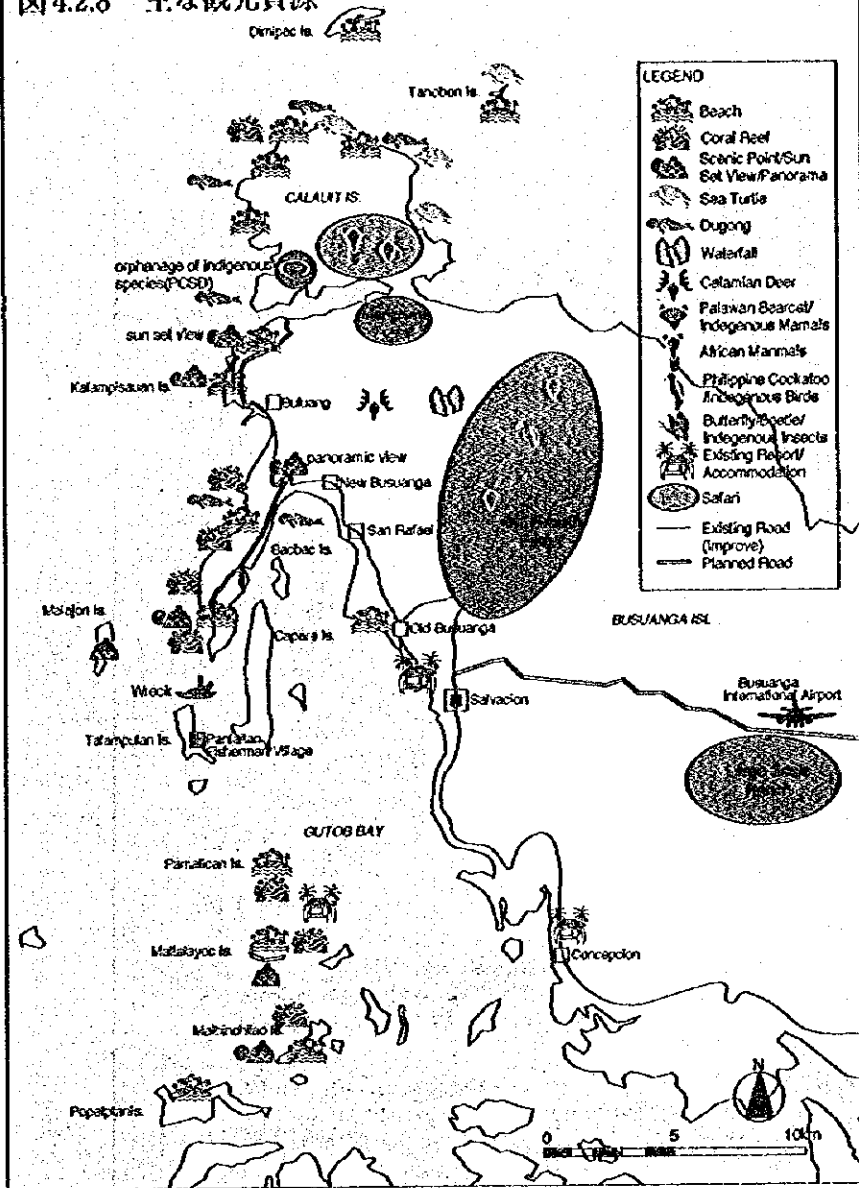
出典：調査団

ブスアンガ西部における滞在観光客数

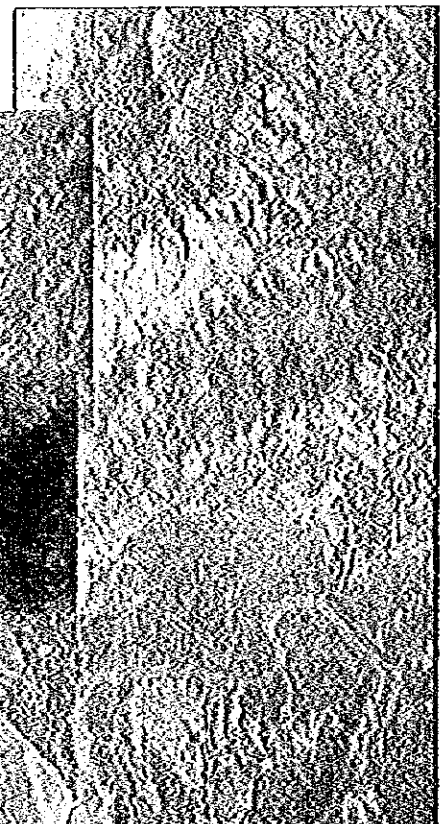
入れ込み観光客	2000	2010
1日平均	150	1,800
ブスアンガ内の宿泊客	110	1,550
外部から	40	250
ピークシーズン	500	4,350
ブスアンガ内の宿泊客	350	3,750
外部から	150	600

出典：調査団

図4.2.8 主な観光資源



Buluang

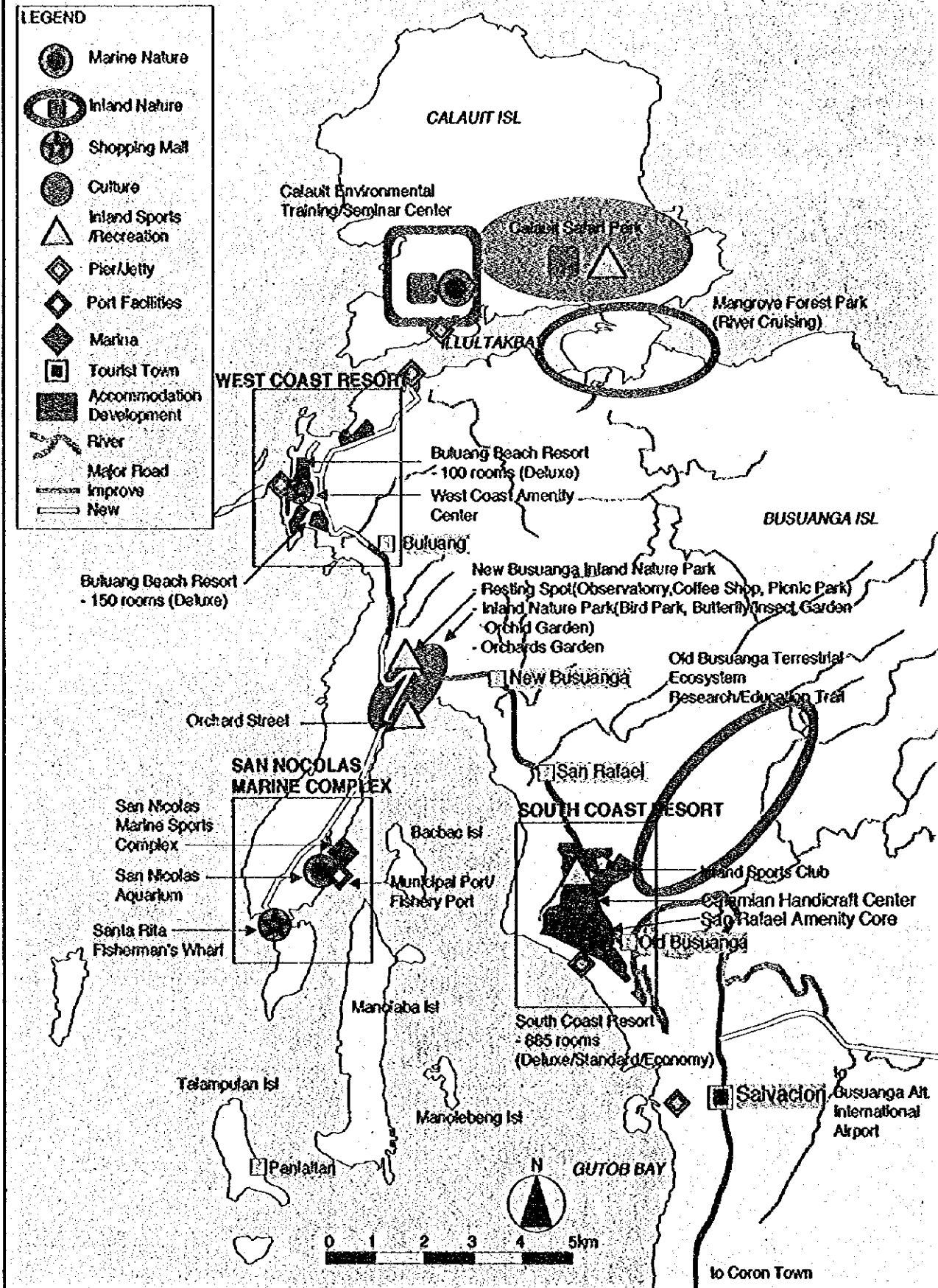


Old Busuanga

San Nicolas / Sta. Rita

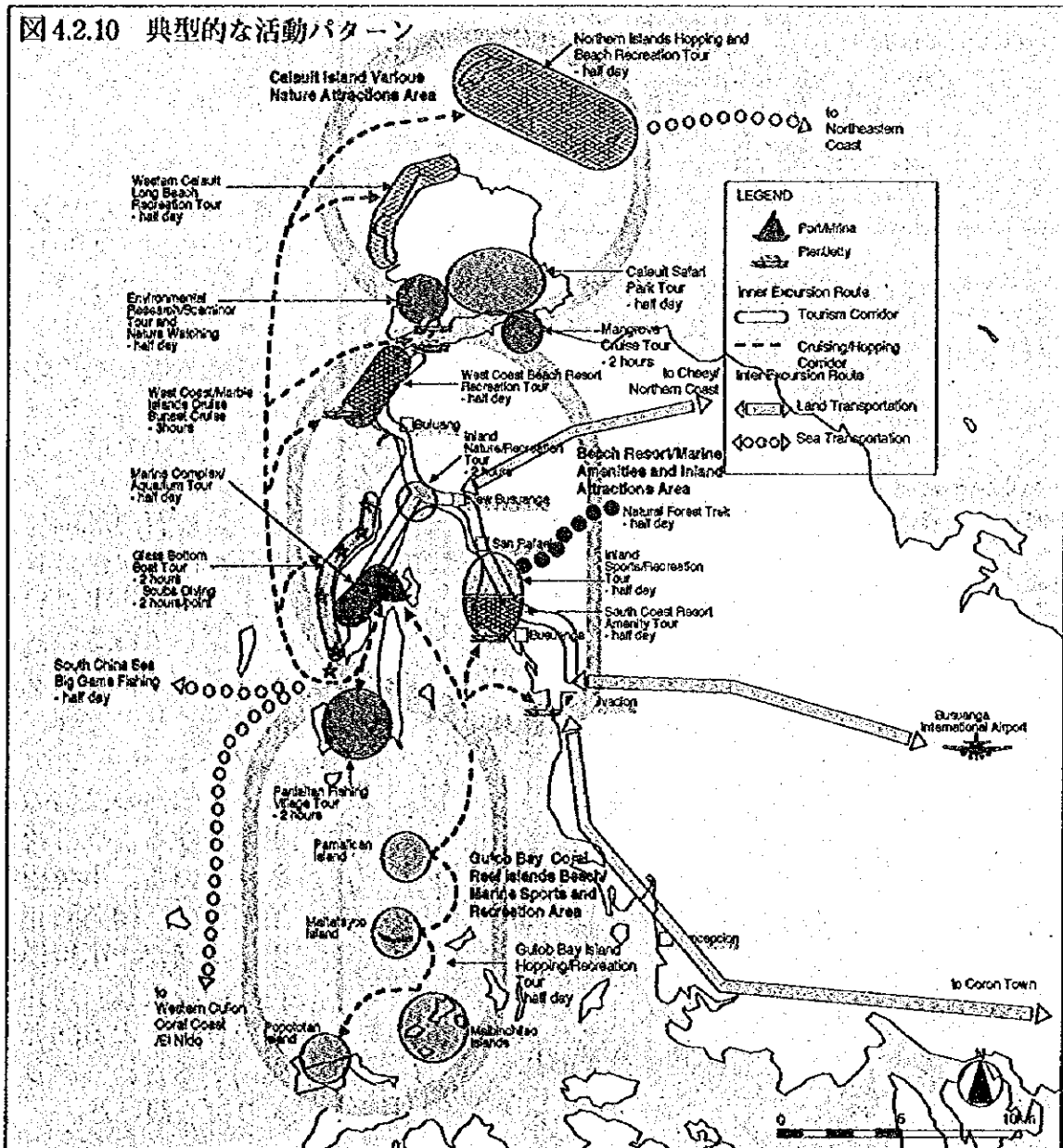


図4.2.9 観光ストラクチャープラン



## 開発ストラクチャープラン

- 観光開発は宿泊施設と観光施設が集中する3つの施設開発地区(オールドブスアンガ、サンニコラス、ブルアングビーチエリア)からなり、観光アクティビティエリアは海洋・陸域の両方である。これらの開発エリアは既存のコミュニティと独立しているのではなく、逆にインフラ開発によって利益を受けるべく統合的に計画されている。これによって既存のコミュニティとアクティビティセンターの双方に利益がもたらされる。(図4.2.9参照)
- 地域外から地区へのアクセスは、改良される予定のブスアンガ空港からサルバシオンへの新設道路で確保する。観光アクティビティの可能性は多様で広範囲である。施設から隣接する場所のみならず、グトブ湾全体またカラウイト島、チーイ、北岸の小島群、コロンまでを含む(表4.2.10参照)。

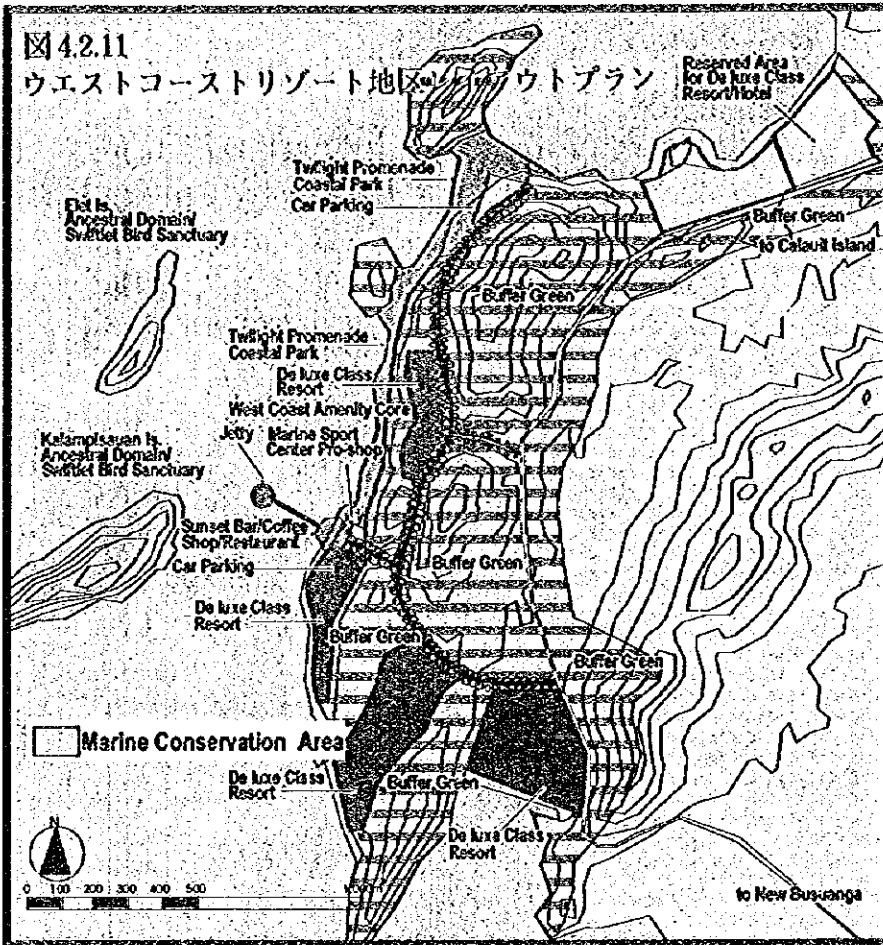


出典：調査団



図4.2.11

ウエストコーストリゾート地区レイアウトプラン



主な開発エリアの施設配置計画

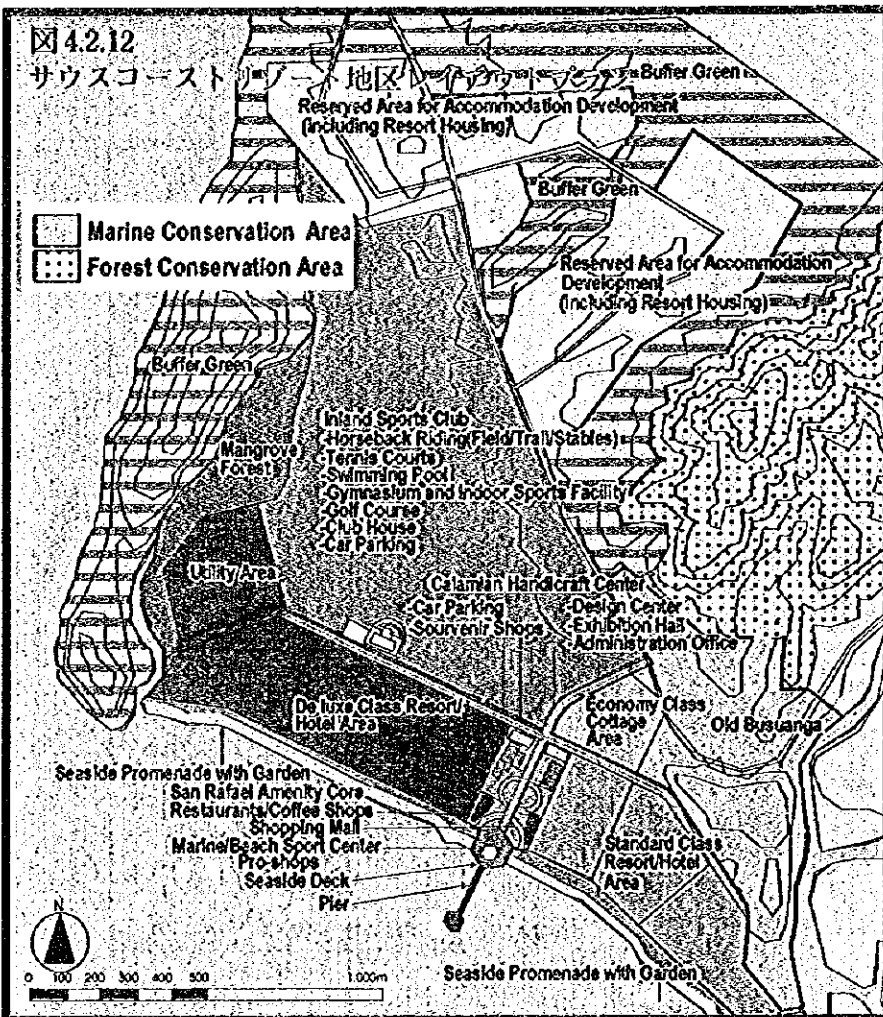
- ストラクチャープランの方針とコンセプトに基づいて主要開発地区の具体的なレイアウトプランを作成した。

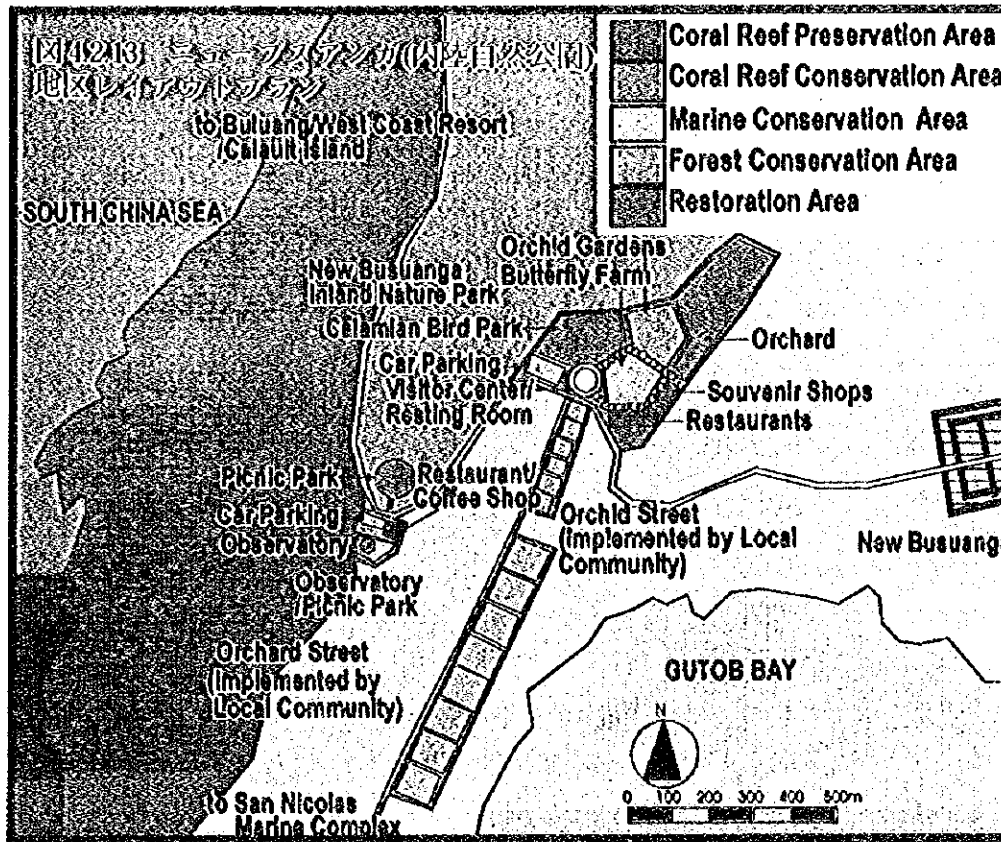
ブルアングビーチエリア (ウエストコーストリゾート): このエリアには最高級リゾートを最も厳しい環境ガイドラインに基き開発する。

オールドブスアング (サウスコーストリゾート): オールドブスアングの既存のコミュニティに隣接したこの開発エリアはケーススタディエリアで最大のリゾート開発エリアである。環境管理計画で示された保護保全エリアと十分な緩衝帯を緑地で確保している。既存のコミュニティは就業機会、エリア管理、インフラ、社会サービス、その他の供給の恩恵を受けるように統合されている。小規模宿泊施設の乱開発防止、水準を満たす小規模は投資の受入れ、地元小規模資本による開発を奨励するためコテッジエリアを設けた。

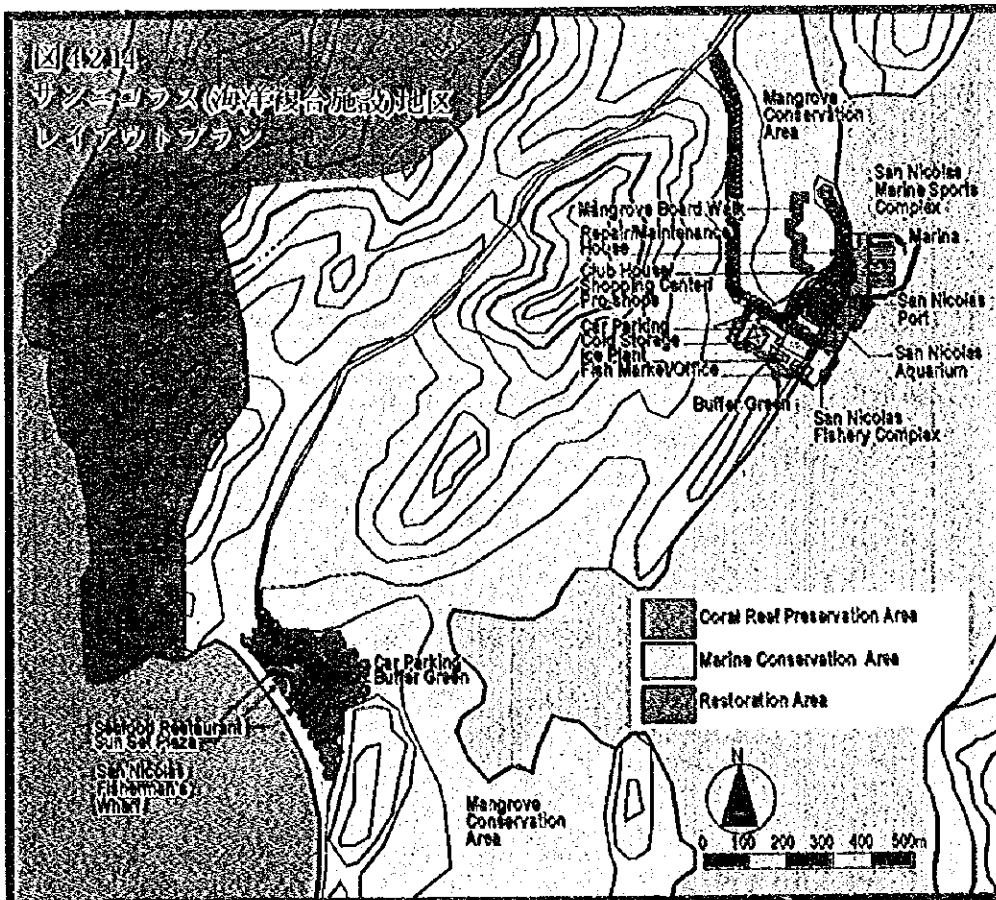
図4.2.12

サウスコースト





ニューブスアンガ(内陸型自然公園):このエリアは観光客に蘭、蝶、珍しい昆虫などを見る機会と地元住民、先住民に就業・ビジネス機会を与える。



サンニコラス(海洋複合施設):このエリアは海洋性のアクティビティの機会の本拠地であり、港湾施設整備は観光客のみでなく地域の漁民が漁船・遊覧船の操業で利益を得る。このエリアには宿泊施設はない。

#### 4.2.5 観光インフラ施設開発計画

- 観光インフラ整備は観光地の競争力を高めるだけでなく、環境への悪影響を最小限にとどめるために必要である。道路、空港、上水、電信電話、ゴミ処理、下水処理等基礎インフラ整備計画の策定に際しては、コミュニティ受益を最大限にすることを考慮した。
- 域外交通アクセスについては、ブスアンガ空港を国際空港規格の水準に改良する。このため現況の滑走路は2,000mに延長し、新しい旅客ターミナルを建設する。またサルバシオンからブスアンガ空港まで幅員12mの舗装道路を新設する。既存のブスアンガ、ニューブスアンガ、サンラファエル、オールドブスアンガ、サルバシオンを結ぶ道路は9mに拡幅舗装し幹線道路として整備する。地域と観光活動を活性化させる道路も必要に応じ整備して行く。新設の港湾施設を観光と地域社会ニーズに応えるためサンニコラスに整備する。
- 上水施設は観光だけでなく、影響圏内の住民も対象として計画する。通信はマイクロウェーブ網で域内の主要施設が結ばれる。電力はブスアンガグリットに接続される。ゴミ処理は今後問題になり、より広域的な見地から計画される必要があり、観光セクターが応分の負担をすることになろう。下水は、施設集中地区については高度な処理施設、個別小規模開発についてはセプティックタンク方式を導入する。下水処理は海洋生態への影響を十分に考慮して計画する。
- インフラストラクチャーや観光施設は質の良い環境を保つために基準に則った計画に基づき開発する。環境影響評価も厳格に実施されなければならない。ホテルや宿泊施設開発は事前に承認された敷地内のみで許可され、開発者は計画・デザインガイドラインを厳守しなければならない。
- 総開発コストは66億ペソである。この金額には周辺既存コミュニティで必要とされる基礎インフラコストの約半分の11億ペソが含まれる。

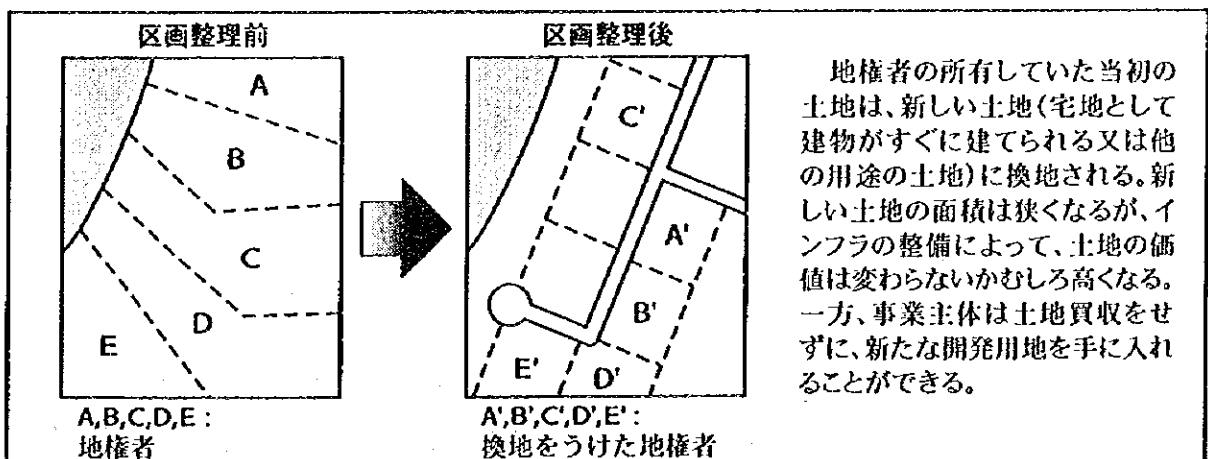
表4.2.4 ブスアンガ西部開発コスト概算

名目		間接費(百万ペソ)	備考
地域インフラ	空港	720	2,000滑走路、新ターミナル
	道路	700	幹線、アクセス道路
	港	175	サンニコラス新港
	上水	60	需要: 2,890 m <sup>3</sup> /日(60% 観光)
	電力	239	需要: 8,600 KVA (80% 観光)
	通信	100	需要: 876 lines (20% 観光)
	ゴミ処理	90	需要: 50 cum 日 (70% 観光)
	街美化	78	
	医療健康	10	
		小計	2,172
観光サポート施設		16	
環境管理施設		37	
観光エリア開発		4,385	内部インフラ、敷地開発、造成造園
合計		6,610	

出典：調査団

#### 4.2.6 開発と管理

- 開発の持続性が担保されるためには、種々の条件が満たされなければならない。第1は、利益は土地売買からではなく、開発から得られるべきである。第2に、利益は関係者の中で貢献度や責務に応じて分配されなければならない。費用の負担も同様である。このプロセスが長期的に担保されれば、開発エリアの適切な管理が可能となる。
- 伝統的な手法である開発許可やEIAに基づいて開発が行われるだけでは持続可能型開発が保証されるとは限らない。ECANゾーニングがあっても計画通りに開発が行われるとは限らず、土地管理や開発（施設とマネジメント両面において）に対するより具体的な方策が必要と考えられる。
- 開発対象地区のハードの品質の確保や当該開発が外部のインフラや環境保全コストを受益に応じて分担することを保証するためには、法的土地利用計画（実効性のあるECANゾーニング）、ガイドラインに基づいたEIAを含む厳格な開発許可システム、罰則規定の適用が必要である。
- 個々のリゾートがガイドラインに基き建設されたとしても、エリア全体が総合的なリゾート複合施設として機能するとは限らない。本報告書3.5で述べられているような一元的な開発組織を設立し、開発を管理することが必要であろう。
- 開発組織は土地統合・土地収用、共有部分の開発、リースか売買のための土地造成、民間業者の開発及び管理計画の承認、組合費等の徴収による共有部分や共有インフラの管理等、開発実行機関として機能する。土地収用・統合が難しい場合が問題になるが、その場合は土地区画整理の手法も考慮されるべきである。



#### 4.2.7 開発計画のフィージビリティ

##### 経済的側面

- マスタープランと同様、開発計画のEIRRは国家経済の視点に立ってみると23%と高い。しかし州政府レベル、市町村レベルへの経済効果は、地方経済システムが如何にこの開発計画に統合されるかによる。
- 政府は需要にマッチした地元の人的資源、資材、サービス供給が可能となるよう支援を推進すべきである。

##### 財務的側面

- ホテルやその他の宿泊施設また商業施設を除き、当開発には地域インフラ、観光施設、環境管理、観光地区開発のコストがかかる。当該計画開発地域の総面積は140ヘクタールで全てのインフラを含んでいる。全ての費用が開発の敷地に割り当てられたときの単位面積当たりの開発コストは6,000ペソ/m<sup>2</sup>である。地域インフラコストの半分以上が観光セクター以外で負担された場合の単位開発コストは5,300ペソ/m<sup>2</sup>である。
- 開発エリア内のインフラの整備レベルを考慮すると、リゾート開発業者がコスト負担できる可能性は高い。
- ブスアンガ西部部地区の環境の質は他に比べる高く、大規模な修復を必要としないので、同地域からの環境保全基金や負担金は、他の修復を必要とする地域に再配分を考える必要があるだろう。

##### 社会的側面

- 当該計画は、観光開発が既存コミュニティから独立したのではなく、インフラやその他のサービスの共有また資源の交換によって、地元社会と共生するものである。従業員は新たな従業員コミュニティを建設しなくとも、既存のコミュニティから通勤できるよう計画されている。地域住民や先住民は、地域の環境や文化資源を活用した観光開発によって利益を享受することができる。

##### 環境的側面

- 環境面からは地区ごとに評価した。(表4.3.5参照)結果は観光開発が環境に好影響与え、悪影響は無視できる範囲であることを示している。但し、サンニコラスでの道路、港、マリナーナ建設、ゴミ処理場の建設等は地域の生態環境に充分注意して行うべきである。

表4.2.5 ブスアンガ西部開発における環境影響評価

プロジェクト項目	環境項目	物理的科学的影響					生態的影響			景観への影響				社会経済景況							
		水質	地下水	大気	風	大気変相	植生	陸域動物	海洋動物植物と生息域	土地	大気	水	動植物	構築物	人工	労働力	交通	住宅・コミュニティインフラ	教育・医療・社会サービス	コミュニティのライフスタイル	先住民コミュニティ
1.	ウエストコースト/環境訓練センター																				
	1) ウエストコースト	C-	C-	-	-	-	B-	-	C-	-	-	-	-	-	B+	B+	-	-	-	-	-
	2) ウエスト環境訓練・センター	C-	-	-	-	-	C-	-	A+	-	-	-	-	-	B+	-	-	-	A+	-	-
2.	ウエストコーストリゾート																				
	1) ウエストコーストリゾート	C-	-	-	-	-	C-	-	C-	C-	-	-	-	-	B+	B+	-	-	-	B+	-
	2) ウエストコースト アクティビティ	C-	-	-	-	-	-	-	B-	-	-	B-	-	-	C+	-	-	-	-	B+	-
3.	ニューブスアンガ内陸型自然公園																				
	1) ニューブスアンガ内陸型自然公園	C-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	B+	B+	-	-	-	-	-
	2) 果樹園通り	C-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	C+	-	-	-	-	-	-
	3) 展望台/休憩所/自然公園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	C+	C+	-	-	-	-	-
4.	サンニコラス海洋複合施設																				
	1) サンニコラス海洋複合施設	C-	-	-	-	-	C-	C-	B-	C-	-	B-	B-	-	A+	B+	-	-	-	-	-
	2) サンニコラス港	C-	-	-	-	-	C-	-	B-	-	-	B-	B-	-	C+	A+	A+	-	-	-	-
	3) サンニコラス水族館	C-	-	-	-	-	C-	C-	C-	-	-	-	-	-	C+	-	-	B+	-	-	-
	4) サンニコラス水産複合施設	C-	-	-	-	-	-	-	C-	C-	-	-	-	-	B+	B+	A+	-	-	-	-
	5) サンニコラス フィッシュマーケット	B-	-	-	-	-	C-	-	C-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5.	サウスコーストリゾート																				
	1) リゾートと宿泊施設	B-	-	-	-	-	-	-	C-	-	-	C-	-	-	B+	-	-	-	-	B+	-
	2) 内陸型リゾート	C-	-	-	-	-	C-	-	B-	-	-	C-	-	-	B+	-	-	-	-	-	-
	3) サンニコラス アクティビティとリゾート花市場	B-	-	-	-	-	-	-	C-	C-	-	B-	-	-	B+	-	-	-	-	-	-
	4) サンニコラスアートセンター	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	B+	B+
6.	観光支援施設																				
	1) 観光センター	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7.	地域社会環境改善																				
	1) 観光地と居住地区の美化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	A+	A+	-	B+	B+	A+	-	-	B+	-
8.	観光インフラ																				
	1) 道路建設	-	-	-	-	-	B-	B-	-	B-	-	B+	B-	-	A+	A+	-	-	-	B+	-
	2) マシグン代替国際空港改良拡張	-	-	-	-	-	C-	-	-	C-	-	-	-	-	C+	C+	B+	-	-	-	-
	3) 水資源開発上水供給インフラ	B+	-	-	-	-	-	-	B-	C-	-	B-	C-	-	B+	-	A+	A+	A+	A+	-
	4) 電力供給インフラ	-	-	C-	-	-	-	-	-	B-	-	-	-	-	C+	C+	A+	A+	A+	A+	-
	5) 通信・電話インフラ	-	-	-	-	-	-	-	-	B-	-	-	-	-	C+	C+	A+	A+	A+	A+	-

出典： 調査団

A+ : Significant Positive Impact

B+ : Moderately Positive Impact

C+ : Negligible Positive Impact

? : Unclear

A- : Significant Negative Impact

B- : Moderately Negative Impact

C- : Negligible Negative Impact